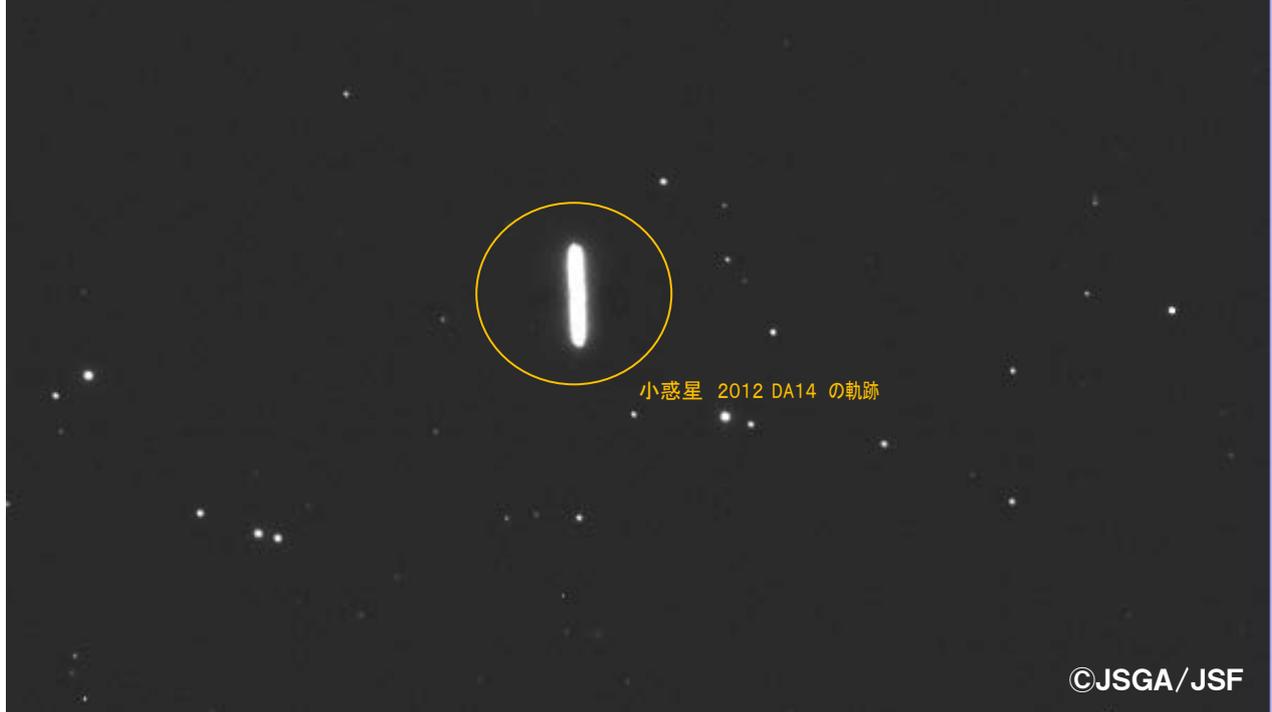


静止衛星の軌道よりも近い高度約2万8千キロ上空を通過 小惑星 2012 DA14 が地球に最接近



美星スペースガードセンター 口径1m反射望遠鏡で撮影した小惑星 2012 DA14 2013年2月16日5時11分(JST) 露出時間 3.0秒

©JSGA/JSF

ロシアに落下した隕石とは反対方向から飛来したことが NASA により確認されました

地球への接近が注意深く観測されていた小惑星「2012DA14」は、日本時間の2月16日午前4時25分ごろ地表から約2万8千キロ上空を無事に通過しました。

「2012DA14」の大きさは直径45メートル、質量は約13万トンで、これほどの大きさの小惑星が人工衛星の静止軌道(高度36,000キロ)よりも内側の距離(高度約28,000キロ)まで最接近するのは初めてのことです。

最も明るくても7等級程度と肉眼では見ることはできない明るさでしたが、日本スペースガード協会が運営する美星スペースガードセンター(岡山県)など国内の一部の天文台では通過する様子の撮影に成功しました。

倉敷科学センター様は動画の撮影に成功し、Youtubeで公開されています。[倉敷 2012DA14 動画](#) で検索!

「小惑星」ってなあに?

火星と木星の間にある小さな惑星のような天体のことを指し、現在約33万個発見されています。帯状に軌道を回っているため、この部分を小惑星帯と呼んでいます。小惑星の中には地球付近を通過する軌道をもつものもあります。

大きなものでは直径が950キロ程度、日本の小惑星探査機「はやぶさ」が着陸したイトカワはわずか500メートル程度の小さな砂と岩のかたまりです。「はやぶさ」が持ち帰ったサンプルを解析することで、小惑星の事がもっとくわしく分かるようになるでしょう。



「はやぶさ」が撮影した小惑星イトカワ

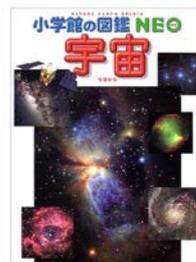


このように図にしてみるといかに地球に近かったかわかる

さらに詳しく知りたい方はコチラ

宇宙ワクワク大図鑑「小天体と隕石(いんせき)」
<http://www.kids.isas.jaxa.jp/zukan/solarsystem/asteroid01.html>

【おすすめ図書】「宇宙(小学館の図鑑NEO)」



監修：池内了
発行：小学館
定価：2,100円(税込)
ISBN：4-09-217209-5
美しいカラー写真と精密な図版で、太陽系惑星から恒星や銀河、宇宙開発の現状までを紹介しています。

Spacei 宇宙かわら版 2013年2月19日号

問い合わせ先：Spacei事務局(財団法人日本宇宙フォーラム)

ホームページ：<http://www.spaceinfo.jp/> お問い合わせ：https://www.science-event.jp/event/spacei_contact/

※特に断りのない限り日付は日本時間です。

Spacei